

<別紙 1-②>

障害区分の解説

全国障害者スポーツ大会競技規則の解説より抜粋 (第3章 障害区分)

- 1 この競技規則は、大会のために制定されたものであり、肢体不自由者の場合、主として身体障害者手帳を参考にしながら、現状の障害に合った区分を選択するようにしている。したがって、運動機能の障害程度から区分される国際競技団体の「クラス分け」とは大きく異なる。
- 2 障害区分は、競技により異なっているが、身体障害者手帳との関係から、身体の形態的・機能的な視野に立った用語を多く使用している。
- 3 障害が重複している場合には、選択した1つ障害区分ですべての競技に参加しなければならない。
- 4 肢体不自由者の障害区分
 - (1) 肢体不自由の7級が重複して6級に認定されている場合は、片側の障害として区分する(両下肢が7級の切断の場合は、片下腿切断に区分する)。
 - (2) 多肢切断や両上肢障害など、複数の部位の切断や機能障害がある場合は、3肢以上(多肢)や両上肢がそれぞれ6級以上の認定を受けていなければならない(左上肢が7級で右上肢が6級などの場合は、片上肢障害として区分する)。
 - (3) 指及び手のひらの切断は手部切断として、足部の切断は下腿切断として扱う。
 - (4) 片側の手部切断も、両側の手部切断も「手部切断」として区分する。
 - (5) 関節離断は、上位の部位の切断として扱う(肘関節離断の場合は、上腕切断となる)。
 - (6) 完全とは、上肢や下肢の3大関節(肩・肘・手関節または、股・膝・足関節)全てに機能障害のあるものをいう。下肢の場合は長下肢装具なしでは体重を支えきれないものをいう。
 - (7) サリドマイドや骨形成不全などにより、前腕は正常でも上腕に障害があるような場合には、競技によっては、最も上位の障害部位(上腕)の切断として扱っても、機能障害として扱ってもよい。
 - (8) 「車いす常用」とは、日常生活で常に車いすを使用していることをいう。また、「車いす使用」とは、大会の競技場面のみに車いすを使用していることをいう。
 - (9) 切断または機能障害の競技者が競技で車いすを使用する場合は、「脳原性麻痺以外で車いす常用または使用」の「その他の車いす」の障害区分とする。
 - (10) 脊髄損傷や脳原性麻痺以外で上下肢に障害のある車いす(筋ジストロフィー症など)の区分は、残存機能や座位バランスなどに留意しながら、脊髄損傷の機能レベルの区分に応じて行う。
 - (11) 脳原性麻痺とは、脳性麻痺、脳血管疾患や脳外傷等による脳に起因して生じる健康状態の総称をいう。ただし、脊髄小脳変性症の場合は、実際の障害状況に応じて他の区分となることもある。
- 5 視覚障害の視力は、両眼の和ではなく、「両眼の良い方の視力」で判定する。両眼の良い方の視力を判定する際、光覚弁、手動弁は視力0、指数弁は視力0.01とする。なお、視力は手帳と同様に矯正視力で判定される。
- 6 内部障害は、ぼうこう又は直腸機能障害のみを対象とする。